

建設経済

商店街の近代化と活性化、ワイン産業の6次産業化の成功要因について

建設経済常任委員会は、10月15日～17日に北海道小樽市と余市町を現地調査しました。

北海道小樽市 商店街の近代化・活性化の取り組み

小樽市は、物流の拠点として、にぎわった歴史があり、いくつもの商店街があります。大型複合商業施設が開業したことを機に、商店街が主体となって取り組む近代化事業や活性化事業への支援が始まりました。商店街の滞在量調査や、買物客の流動調査などに組み込まれ、現在では昔の名残りを活かした商店街など特徴的な商店街が形作られています。課題としては、個別の店舗の更新に留まり、商店街全体の連携不足などがあるとのことでした。



小樽市での
視察の様子

北海道余市町

6次産業化・ワインを核とした地域振興施策

冷涼な気候や良質な土壌といった地域資源を活かして、高品質なブドウの栽培に取り組んでいます。平成23年に構造改革特別区域法に基づき、ワイン特区に認定されたことを受けて、小規模事業者でもワイン製造に参入しやすくなりました。加工・販売を一体化させ6次産業化したワインは、地域ブランドが確立され、観光振興にもつながっています。一方で、農地の確保や後継者不足、気候変動に対応した品種転換などが課題となっているようです。

調査を終えて

商店街の振興については、既存の商業者の皆さんの声を聞きながら、どういった支援や助成が必要かを検証していく必要があると改めて感じました。また、余市町では「何よりワイン一点突破」という明確な戦略と住民の思いが成功の要因だと感じました。本市の農林業においても、伝統力を基盤に新しい商品や加工品の開発に取り組むと共に、商品に対して「誰が」「どんな思い」で作っているのかを消費者の皆さんに伝えていくことも重要な事であるように感じました。

小山 和也

総務文教

交通空白地対策と不登校支援事業の先進事例を視察

総務文教常任委員会は10月28日～30日に京都府綾部市と大阪府八尾市を視察しました。

京都府綾部市 交通空白地有償運送事業「山タク」

綾部市山家地区は、自家用車が無いと高齢者等は生活に必要な移動が難しい状況でした。そうした困りごとを地域で解決するために、地元と行政が連携し、「NPO法人山家みらい」は住民の送迎サービスを行っています。乗車方法は事前に会員登録します。運行の範囲は山家地区12町区内で、地区外への移動は他の交通機関へ乗り継ぎます。

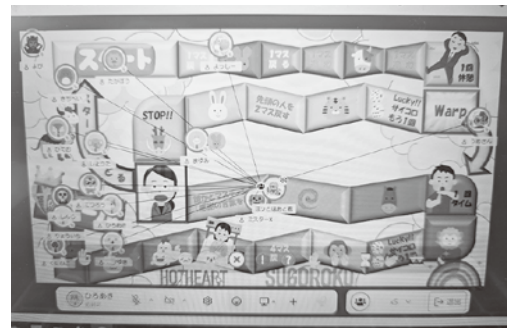
既存のバスやタクシーとの連携の必要性から、エリアを越えて、どこへでも自由に行けるというところまでは対応できないことが、今後の課題とのことでした。

大阪府八尾市

不登校支援事業(ほっとはあとサポート事業)

「誰一人取り残さない八尾の教育の実現」との方針に基づき、「①新たな不登校児童を生み出さない②学校内外の居場所づくり③どこにもつながっていない児童生徒を減らす」を対応方針とされています。具体的には、校内教育支援ルームや八尾市不登校等対策支援事業(ほっとはあとサポート事業)に取り組み、個々の状況に応じた多様な支援体制が構築されています。中学生の不登校生徒は減少傾向とのことでした。

パソコンを活用したバーチャル空間の模擬実習を体験しましたが、気軽に参加できるデジタル空間は、楽しみながら友人と学習につながる素晴らしいカリキュラムだと感心しました。



バーチャル空間での
模擬実習の様子

調査を終えて

両自治体とも固定概念にとらわれず、地域課題に熱心に挑戦し続けてある姿に感銘しました。本市にとっても重要な課題であり、解決の一助となるよう今後の議会活動に生かしてまいります。

原田 英雄

厚生

暮らしを支える現場と制度が
つながる地域を目指して

厚生常任委員会は、10月22日～24日に石川県小松市と富山県富山市、氷見市を現地調査しました。

石川県小松市 認知症を地域で支える仕組み

小松市では、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を理念に、行政・事業所・地域住民が一体となった支援体制が進んでいました。取り組みは「知る」「つながる」「支える」の三層構造で整理され、安心通報システムや位置情報サービス、認知症カフェなど、行政が支援を抱え込むのではなく、地域の中に自然と支え合いが生まれる環境ができていました。

富山県富山市 制度と現場が調和した病児保育

旧小学校跡地を活用した、富山市の「まちなか総合ケアセンター」では、お迎え型病児保育事業が実施されています。看護師と保育士がタクシーに同乗して送迎を行う体制や、医師の診断を前提とした利用の仕組みなど、安全性を確保する制度設計と現場運用が無理なく調和する形で構築されていました。制度の考え方と現場の動きが乖離せず、実際の運用につながっている点が印象的でした。

富山県氷見市 合意形成を重視した病院改革

氷見市民病院では、経営悪化を背景に公設民営化による病院改革を推進。改革にあたって、専門家や市民代表を交えた委員会を設置し、公開の場での議論と合意形成を重視し、経営面の改善だけでなく、市民への説明と理解を積み重ねてきました。そのプロセスそのものが、現在の安定した医療提供体制につながっていることが伝わってきました。



氷見市での
視察の様子

調査を終えて

各自治体の取り組みでは、行政が全てを担うのではなく、地域や現場の力が発揮される環境を整えることが意識されていました。高齢化、子育て支援、公立医療の分野は、八女市にとっても避けて通れない課題です。制度の中身だけでなく、進め方や合意形成の在り方にも目を向け、市民に寄り添った施策につなげて参ります。

花下 主茂

令和7年 行政視察の受け入れ実績

他の自治体（市町村議会や首長部局など）からの依頼により、行政視察を受け入れています。行政視察とは、地方自治体が他の先進的な自治体や関連機関へ出向き、その地域の実情や優れた施策、運営方法などを調査・研究し、自らの自治体の行政サービス向上や課題解決、政策立案に活かすための調査活動です。今回は他の自治体から注目されている八女市の事業について、ご紹介します。

視察日	議会名	視察内容
1月23日	島根県大田市議会	八女市予約型乗合タクシー「ふる里タクシー」
1月29日	埼玉県越谷市議会	おくやみワンストップサービス
5月14日	高知県南国市議会	重層的支援体制整備事業（福祉）
5月15日	徳島県阿南市議会	公共施設における太陽光発電設備導入
7月 3日	滋賀県米原市議会	農業振興（特産品のブランド戦略など）
8月21日	宮崎県都城市議会	伝統工芸を基にした地域振興
11月 6日	富山県富山市議会	遊休公共施設等の利活用促進
11月18日	長野県大町市議会	重層的支援体制整備事業（福祉）